

第1回 「雲仙普賢岳溶岩ドーム崩落に関する危険度評価検討委員会」 結果

● 溶岩ドーム14年間で約1mの移動を確認

・平成9年から溶岩ドームの変位を観測している測量のデータによると約1mの移動が観測されており、その移動方向は南東方向です。

● 溶岩ドーム崩壊の可能性を示唆

・溶岩ドームの崩壊には重力による自然崩壊、降雨等による溶岩ドーム末端部の堆積物の流出にともなう崩壊、地震による崩壊が考えられます。

● 溶岩ドーム崩壊による影響を調査へ

・委員会において、今後溶岩ドーム崩壊による影響を調査する方針です。

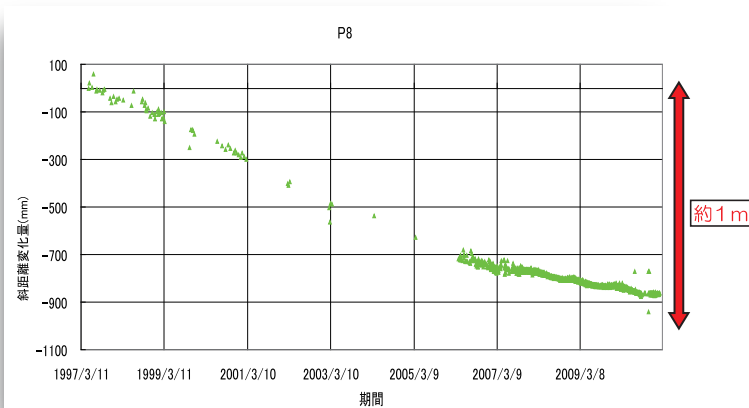


図-1 溶岩ドームの移動量

※平成9年～平成23年の観測データ(P8)

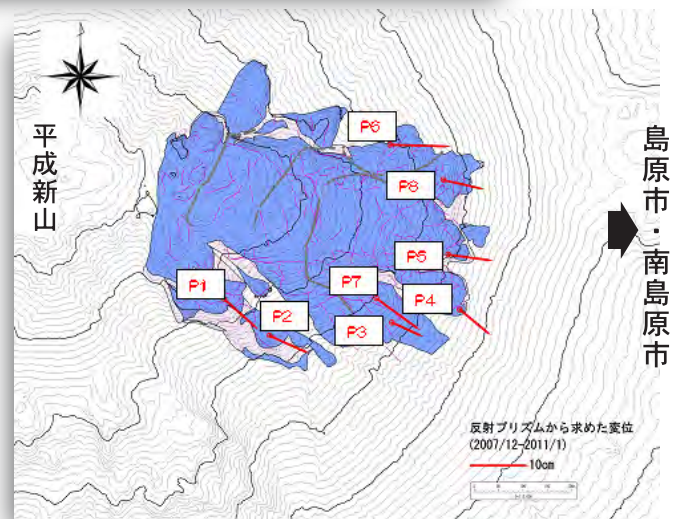


図-2 溶岩ドームの移動方向

※平成19年12月～平成23年1月の観測データ